

高尾山の天狗伝説

東京・共立女子第二高等学校／神奈川・桐蔭学園高等学校
高尾研究会
(小林実莉、武島亜矢子)

応募の動機

学校に貼られていたポスターでこのコンテストのことを知りました。地域の民話を調べてみると、よく街で見かける天狗のお面や銅像は高尾山の天狗伝説に関係するものだとことを知りました。そこで、もっと深く知りたいと思い、高尾山の天狗伝説について調べることにしました。

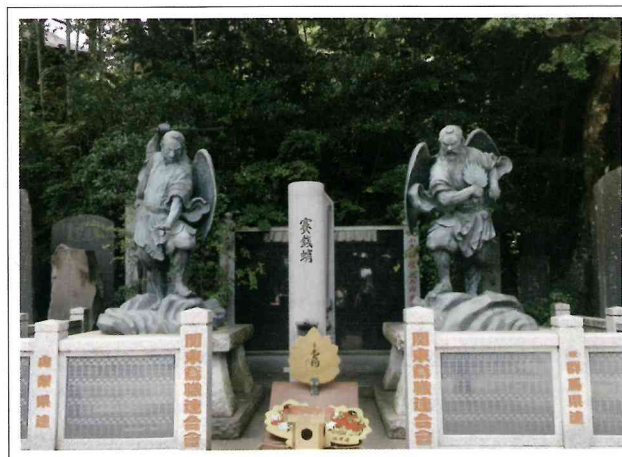
研究レポート内容紹介・今後の課題

高尾山には、「天狗さらい」という民話があります。死ぬまでに一度でいいから高尾山に登りたい、と願う老人が、いつも高尾山に向かって手を合わせていたところ、突然薬王院（高尾山にある寺院）のお堂に姿を現します。驚く僧たちに、大増正が「これは天狗さらいだ」と言い、この老人を自分たちのお勤めへと向かい入れます。この老人は僧たちとお勤めをした後、煙のように姿を消し、その後ずいぶんと長生きしたという話です。私たちは、天狗＝妖怪というイメージを持っていたため、この民話を読んで意外に思いました。さらに、他地域に伝わる民話では、人々に悪戯をするものとして書かれてるものもあります。ここで、私たちはなぜ高尾山の天狗は良いものとして書かれているのか、なぜ地域にこれほど深く根付いているのかを調べることに決めました。そして、実際に高尾山に登り、薬王院の方にインタビューをしに行きました。まず、天狗の成り立ちの説にはいくつかあり、その1つとして有力なのが修験道という宗教に関わるものです。高尾山では古くから修験道の修行が行われており、修行を終えた山伏や修験者と呼ばれる者が里に帰り、修行での経験や得た知識で人々を精神的、肉体的に支えたことから、彼らが天狗として神格化されたという説です。さらに、天狗は修験者たちを護る山の守り神として崇められ、守護神とされています。修験道では不殺生を強調しているので、天狗は自然を守り、人々も守ってくれるというイメージから人々の間で広まっていったものと考えられます。そのようなイメージから、人々は天狗を古くから親しみ、神としてその存在を大切にしてきたのです。実際、高尾山の麓の店には、沢山の天狗の商品が売られており、高尾山から離れたところでも、天狗のお面が飾られているのをよく見かけます。今回、高尾山に登ってみて私たちは、高尾山の自然の豊かさは、人々が天狗という存在を重要視し、大切にしてきたことで守られてきたものなのだと実感することができました。

今後の課題は、1つは天狗の神か妖怪かの存在をもっとはっきりさせることです。天狗は空想上の生き物なので、やはり曖昧なところが多く残ります。他地域の民話の天狗に対するイメージを比較することで、「天狗」という存在をより確かなものにできれば、もっと深く知ることができるかもしれません。また、高尾山の天狗は、人々の自然に対する見方や大切に想う気持ちの表れに関係すると考えたので、今回の天狗の調査を高尾山の自然保護に活かせるような活動をしていきたいと思いました。



高尾山の山道



「高尾山の天狗さま」